

世界臨床検査通信シリーズ-82

第17回アジア臨床病理・臨床検査医学会
ASCPaLM日本開催(神戸)について

第17回アジア臨床病理・臨床検査医学会 大会長
(新渡戸文化短期大学臨床検査学科)

みや ちはや と
宮 地 勇 人
Hayato MIYACHI

第17回アジア臨床病理・臨床検査医学会 (Asian Society of Clinical Pathology and Laboratory Medicine: ASCPaLM) は、会期 2022 年 10 月 7 日 (金) ~ 9 日 (日)、会場 アリソンホテル神戸として、10 年振りに日本で開催された。令和ではじめて、かつポストコロナ時代に向けた国際交流再開の試金石として歴史的な開催となった。

本学会は、アジア各国での活動、経験と知識について情報交換し、臨床検査の良質な実践を通して、地域内外の健康と医療・福祉に貢献することを目的としている。本学会は、1975 年に設置された日韓合同臨床病理会議としてスタートし、アジア臨床病理会議 (Asian Conference of Clinical Pathology: ACCP) (1990 年) を経て、2002 年に現在の名称と枠組みとして発展拡充された。

本大会のテーマとして、「SDGs (Sustainable Development Goals) 持続可能な開発目標に向けた臨床検査のイニシアチブ」とした。臨床検査の学術推進と発展においては、アジアをはじめとしたグローバルな展開が求められる。アジア諸国の方々との相互理解と協力を推進する上で、日本の活動 (産学連携) の現状を直接見て貰うため、第 54 回日本医療検査科学学会大会、日本臨床検査機器試薬・システム振興協会 (日本臨床検査機器・試薬・システム振興協会 (Japanese Association of Clinical Laboratory Systems: JACLaS) EXPO 2022 - 臨床検査機器・試薬・システム展示会との同時開催とした。

大会では、臨床検査医学分野における臨床・研究に従事する医師および研究者が一堂に会して、特別講演、シンポジウム、一般演題発表 (ポスター) を通して討議を行い、研究成果を臨床に展開し、技術の進歩に呼応した良質な医療に寄与することを目的

とした。多くの方々のお力添えのお陰で、一般演題の総数は想定を大幅に超える 100 題余りと多数を登録頂いた。シンポジウム I 「SDGs における臨床検査のインパクト」、シンポジウム II 「次なるパンデミックへの備え」において、アジア諸国から演者を招聘し、各国での取り組みについて討論頂いた。産業界との連携企画である企業技術セミナーでは、大会テーマを趣旨としたセッション企業技術セミナー「ウィズコロナ技術の展開」、「血中がんバイオマーカー」、「血栓症マーカー」を設置した。従来からの一般演題に対するポスターアワードに加えて、JACLaS トラベルアワードを設けた。

開催形式は、コロナパンデミックにおいて、ワクチン接種と医療環境体制整備が進む中、段階的に社会経済活動を再開する国の方針のもと、国際交流の緩和を踏まえて現地開催が実現した。国ごとに異なる渡航規制を鑑みて、指定演題の講演者、座長はオンライン参加可能なように準備した。コロナパンデミックの中、様々な課題を乗り越えて、予想を超える参加者 (海外 8 カ国 113 名を含む 223 名) をお迎えし盛会裡に終了することができた。専門知識を超えた多様なテーマについて、最新のレビューを身につける機会を提供し、社交イベント (ラボツアー、レセプション、フェアウェルパーティー等) では、国際交流の絶好の機会となった。これも関係者皆さまのご指導ご厚誼の賜物と存じ心より感謝申し上げます。御礼を兼ねて報告とさせていただきます。